

7月21日は土用の丑の日!
なぜ絶滅危惧種に? 遊んで学べるウナギすごろくを発表

- 「僕たちの食べているウナギはどこから来たの?」「ウナギはどのようにして減っているの?」という疑問について、ウナギの一生をすごろくに見立て、遊んで学べる学習ツールを専門家とともに作成しました。
身近なウナギから、海、川、川の流れ、そこで営まれる人々の暮らしや社会まで考え、保全と持続的利用について考えることができます。
大人でも引き込まれる丁寧で専門性の高い副教材や動画が付属し、小学校の総合学習の時間や博物館などのイベントでもSDGsの14番目のゴール「海の豊かさを守ろう」が学べます。
当面、貸し出しを実施。将来アプリ開発を目指して、連携企業も模索中です。



公益財団法人日本自然保護協会 (NACS-J・会員約2万4千人、理事長: 亀山 章) と海部 健三 (中央大学准教授) らは、7月14日、土用の丑の日を前に、ウナギについて遊んで学べる「ウナギいきのこりすごろく」を作成し、発表しました。南の海で誕生し、日本の川で生活して、産卵のため再び南の海に旅立つウナギの一生を体験し、ウナギの保全と持続的利用について考えることができる、子どもだけでなく大人も楽しめるすごろくです。



「ウナギいきのこりすごろく」のボード



2020年の土用の丑の日は、7月21日（一の丑）と8月2日（二の丑）の2回あります。日本では土用の丑の日に、ウナギを食べるという習慣が根付いています。しかし、ウナギは年々数が減少しており、2014年にIUCN（国際自然保護連合）はニホンウナギを絶滅危惧種と評価しています。ウナギ減少の問題を解決へと導くためには、ステークホルダーによる状況の正確な理解が欠かせません。



減少を続けるニホンウナギ

このすごろくは、ウナギになり切ってプレイすることで、「ウナギはどこで生まれるの?」、「養殖のウナギと天然のウナギは何が違うの?」、「ウナギは何を食べるの?」など素朴な疑問から、「なぜウナギは減っているのか?」「放流すればウナギは増えるのか?」といった、より複雑な問題まで、遊びながら理解できます。特に、小学4年生から6年生くらいの総合学習などの時間にも使えるよう、先生向けのガイド動画や副教材もついています。なお、作成したすごろくは日本自然保護協会へ申し込んでいただければ、小学校や博物館・NGOなどが主催するワークショップに貸し出すことが可能です。また、下記のすごろく特設ウェブページよりサンプルセットを無料ダウンロード可能です。将来はアプリへの移行も検討しています。



すごろくで用いる解説カードの例



### すごろくのウェブページ

[https://www.nacsj.or.jp/unagi\\_game/](https://www.nacsj.or.jp/unagi_game/)  
 すごろくボードやサイコロ、コマなどが無料でダウンロードできます。また、使用方法や学習指導要領との対応、すごろく貸与の申込フォーム、ウナギに関するFAQなど、すごろくを行うために必要な情報が揃っています。

### 解説動画

<https://youtu.be/p9vyENuV9JI>  
 ニホンウナギの基礎知識、すごろくの進め方などを説明した動画です。

#### ■ 本リリースに関するお問合せ

日本自然保護協会 保護部：若松・大野 広報部：道家

Email: [hogo@nacsj.or.jp](mailto:hogo@nacsj.or.jp) 電話：03-3553-4103（平日 10時30分から15時まで）

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

画像・写真の入手は右記のアドレスにアクセスください。 <https://nacsj.box.com/s/3a596hcunseoko907580kpzmw9mugg9q>

#### 公益財団法人 日本自然保護協会について

自然保護と生物多様性保全を目的に、1951年に創立された日本で最も歴史のある自然保護団体のひとつ。会員2万4千人。ダム計画が進められていた尾瀬の自然保護を皮切りに、屋久島や小笠原、白神山地などでも活動を続けて世界自然遺産登録への礎を築きました。「自然のちからで、明日をひらく。」という活動メッセージを掲げ、山から海まで、日本全国で自然を調べ、守り、活かす活動を続けています。 <http://www.nacsj.or.jp/>